

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第2号(修正版)を下記のとおり発表したので送付します
(修正は下線部)。

平成24年度病虫害発生予報第2号(修正版)

平成24年 4月27日
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量	
水稲	苗立枯れ(もみ枯細菌病による苗腐敗)	—	やや少	モモ	ナシヒメシクイ カメムシ類	やや遅 並	並 <u>並</u>	
	ヒメトビウンカ	—	多		ブドウ	灰色かび病	やや遅	やや多
	縞葉枯病	—	並	べと病		やや遅	やや多	
	ツマグロヨコバイ	—	やや少	キュウリ等		灰色かび病	—	並
	萎縮病	—	並					
イネミズゾウムシ	やや早	並						
麦類	アブラムシ類	—	やや少	イチゴ	うどんこ病	—	並	
	ヤノハモグリバエ	—	少		タマネギ	べと病	—	やや少
ジャガイモ	疫病	やや遅	並	ナス等	ミナミキイロアザ ミウマ	—	並	
モモ	灰星病	—	やや多	アブラナ科 野菜	アブラムシ類	—	やや少	
	黒星病	やや遅	並		コナガ	—	やや少	
	せん孔細菌病	やや遅	やや少	キク	アブラムシ類	—	やや少	
	褐さび病	やや遅	並					
	モモハモグリガ	—	やや多					
ウメシロカイガラムシ	やや遅	並						

ア. 被害はオオムギで多く、コムギで少ない。多発地帯では水田裏作として、コムギに転換する。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 4月19～20日の巡回調査では平年同様発生を認めなかった。

イ. ジャガイモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

ウ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされている。高温は発病を抑制し、多雨は発病を助長する要因となる。

2. 果 樹

(モモ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月25日の巡回調査（南部）では、花腐れの発生圃場率は25.0%で平年（19.7%）よりやや多かった

イ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされており、降雨が多い場合には発病を助長する要因となる。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 4月25日の巡回調査（越冬病斑調査）では、発生量は平年並であった。

ウ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされており、降雨が多い場合は発病を助長する要因となる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 前年の発生量は平年より少なかったことから、伝染源の越冬量も平年より少ないと考えられる。

(4) 褐さび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 前年の発生量は平年並であったため、伝染源の越冬量も平年並と考えられる。

(5) モモハモグリガ（第1世代成虫）

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 4月25日の巡回調査(南部)では、発生圃場率は40.0%で平成(0%)より高かったものの、発生程度は軽微であった。

イ. 県予察圃場のフェロモントラップによると、4月1～5半旬までの誘殺数は33頭で平成(7.1頭)より多かった。

ウ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平成並か高いとされており、高温は発生を助長する要因となる。

防除上の参考事項

ア. 本年は越冬世代が多めなので、初期防除を徹底する。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 越冬世代成虫の50%抱卵日は4月22日と推定され、平成(4月19日)よりやや遅かった。なお、予測式から防除適期(幼虫ふ化最盛日)は5月7日頃と予測される。

イ. 越冬雌成虫の生存率は88.0%で平成(89.4%)並であった。

(7) ナシヒメシクイ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月17日であり、平成(4月12日)よりやや遅かった。

イ. 4月1～5半旬の誘殺数は48頭で平成(50.4頭)並であった。

(8) カメムシ類

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 前年2月～5月のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯への飛来予測数は、チャバネアオカメムシは赤磐市が495.1頭で平成(486.4頭)並、津山市は201.3頭で平成(327.5頭)よりやや少ないと予測される。クサギカメムシは赤磐市で28.9頭(平成16.6頭)、津山市で268.5頭(平成198.0頭)であり、平成よりやや多いと予測される。

イ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平成並か高いとされており、発生時期は平成並と予想される。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや多

予報の根拠

ア. ブドウの生育は平成よりやや遅めで推移している。

イ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平成並か高く、降水量は平成より多いとされており、発病を助長する要因となる。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや多

予報の根拠

- ア. ブドウの生育は平年よりやや遅めで推移している。
- イ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する要因となる。

防除上の参考事項

- ア. ブドウべと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌剤（アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン剤）に対して感受性が低下した耐性菌と思われる菌が本県の一部で確認されている。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤とできるだけ組み合わせる（平成24年4月6日発表の植物防疫情報第2号参照）。

3. 野菜

（キュウリ、ナス、トマト、イチゴ）

（1）灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 4月19～20日の巡回調査によると、イチゴでは発生圃場率が30.8%で平年（12.5%）より高く、トマトでは0%で平年（34.7%）より低かった。キュウリ、ナスでは発生を認めず平年（0%）並であった。
- イ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされており、発病をやや助長する要因となる。

（イチゴ）

（1）うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 4月19～20日の巡回調査によると、発生圃場率は10.0%で平年（14.6%）並であった。
- イ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされており、特に発病を助長する要因ではない。

（タマネギ）

（1）べと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 4月19～20日の巡回調査では発生を認めず、平年（46.2%）より低かった。
- イ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされている。高温は発病を抑制し、多雨は発病を助長する要因となる。

（ナス、キュウリ）

（1）ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 4月19～20日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は平年並であった。
- イ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされており、特に発生を助長する要因ではない。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は69頭で、平年(163.2頭)より少なかった。

イ. 4月19～20日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は0%で平年(10.3%)より低く、ハクサイでは50.0%で平年(38.3%)並であった。

ウ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされており、特に発生を助長する要因ではない。

(2) コナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～4半旬のフェロモントラップの誘殺数は0頭で、平年(38.0頭)より少なかった。

イ. 4月19～20日の巡回調査によると、ダイコン、ハクサイでの発生圃場率は0%で平年(23.2%)より低かった。

ウ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされており、特に発生を助長する要因ではない。

4. 花き類

(キク)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市における4月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は69頭で、平年(163.2頭)より少なかった。

イ. 4月19～20日の巡回調査によると、発生圃場率は12.5%で平年(25.8%)よりやや低かった。

ウ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされており、特に発生を助長する要因ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。